

## 平成29年度第4回行政評価委員会（暮らし部会）会議録

### 1 開催日時

平成29年7月7日（金） 午後1時30分～午後3時40分

### 2 開催場所

市役所3階 302会議室

### 3 出席者

委員 4名

鈴木 部会長、高橋 委員、吉田 委員、福盛田 委員 （欠席：木村 委員）

説明者 1名

今井 地域福祉課長

事務局（施策及び事務事業担当）

秘書政策課：赤坂 企画調整係長、平石主任

### 4 課題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「地域福祉の推進」について評価を行った。

- (1) 施策主管課による説明、質疑応答
- (2) 委員会の評価結果集約

### 5 議事録

- (1) 施策主管課による説明、質疑応答

#### 【主な意見・質疑等】

鈴木委員：女性に対しての相談体制や医療費助成など対応が手厚い。その一方で、民生委員に関する理解が進んでいないことが課題となっている。

高橋委員：福祉には様々なサービスがあるが、どのようなサービスがあるかを知らないという人が多い。また、自分の置かれている状況は普通のこと、相談するほどのことではないという意識の人もある。そのようなときに、身近にいて相談できるのが民生委員なのだが、家庭訪問を毎日できるわけではないので、自ら「困っている」ということを発信してもらわないといけない。

吉田委員：市民アンケートの質問があまりにも漠然としているので、答えづらいのかもしれない。市民が民生委員に相談した内容を分析して、アンケートに反映させてみるのも良いかもしれない。

高橋委員：明日の生活にも困るような人でないと、民生委員や市役所には相談に来ないと思われる。

今井課長：民生委員の方々も仕事などで忙しいため、高齢者の方を重点的に見ていただいている。

福盛田委員：個人情報の取り扱いが厳しくなっていることから、民生委員の活動が難しくなっている。高齢者だけではなく、引きこもりやニートの方も調べて、生活困窮者とならないような対策が必要かと思われる。

今井課長：生活困窮者の貧困の連鎖を断ち切るため、学習支援も行っている。

高橋委員：すべてを民生委員任せにするのではなく、地域で民生委員を助けていく体制や小さな情報も民生委員に伝えていく体制づくりをしないと、将来的になり手を確保するのがさらに難しくなってしまう。

福盛田委員：隣人同士でもつながりが薄くなってきている。新しい世帯が多いところだと特にその傾向が強い。そのような風潮の中で、民生委員がどのような役割を担っているかわかっていない人も多い。また、民生委員の中にも、権限があることで負担に感じている人も多い。

吉田委員：社会福祉協議会に委託している事業が多いが、市の裁量で実施されている事業はあるのか。福祉の事業だと、国によって決められたことを、決められたように実施するだけということになるのか。

今井課長：委託をするという判断も市の裁量となる。

吉田委員：民生委員による相談支援の件数が昨年度は 400 件ほど減少したが、どのような項目が減っているかなどの相談内容の分析は行っているのか。

今井課長：活動実績の報告はいただいているが、相談の中身まではすべては把握できていない。

吉田委員：どのような相談が減少していて、今はこのような相談が増えているというような分析ができると、民生委員の引き継ぎの際の資料として活用でき、負担の軽減につながると思う。

吉田委員：成果指標の「身近に相談できる」という表記は、身近という定義がされていないことから、答えるのが難しくなっているのではないか。「相談できる場所」や「民生委員」のように具体的な表記とすることで、アンケート対象者にとって分かりやすくなり数値が改善されるかもしれない。

今井課長：本年度の市民アンケートからは、「身近に相談できる人や機関がありますか」という設問に加え、「悩みや問題を抱えたときに、相談できる場所（場所や人）があることを知っていますか」という設問を新たに設定した。前者の設問よりも数値が高く出ると予想していたが、予想に反して数値が低く出てしまったためさらなる周知を図る必要があると考えている。

吉田委員：数値が年々減少しているのは良くないことなのかもしれないが、インターネットの普及により簡単に情報を入手できるようになったため、助け合う必要がなくなっているのかもしれない。

高橋委員：インターネットで情報を収集して、自分の力ではどうにもならなくなつてから、ようやく相談に来るのかもしれない。生活困窮者への対策が一番多いのかもしれないが、福祉は相談の幅が広すぎると感じる。

鈴木委員：事務事業を一生懸命実施されており、成果がAとBのみであるにもかかわらず、成果指標の達成状況がDになるということは、成果指標の設定が適切ではないと思われる。質問の内容を設定するのが特に難しいことから、アンケートを指標とするのは難しいのかもしれない。

今井課長：成果指標が1つしか設定されていないため、アンケート結果がストレートに成果指標の達成状況に反映されてしまった。第2期中期プランからは成果指標でアンケート結果を2つ用いているが、先ほど申し上げた通り、新たに設定した設問も数値が低いことから、さらなる対策が必要と考えている。

吉田委員：アンケートの設問を「民生委員を知っていますか」や「民生委員に相談しますか」などストレートなものにしたほうが良いのではないか。また、自分たちが数値として把握しておきたいものを、成果指標として設定すべきだとも思う。

## (2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シート】

### ◇①施策を構成する事務事業の評価・検証について

→的確であるが、福祉情報発信事業に関しては、具体的にどのように周知を図るのかということも記載すべき。

### ◇②施策の成果指標及び達成状況の分析について

→成果指標が1つだと施策の取り組みについて正確な分析が難しいため、分析が十分ということとはできないと思われる。

### ◇③施策の総合的な評価について

→民生委員に関することが唐突に課題として挙げられていることに、違和感を覚える。また、「20歳から64歳までの現役世代への相談機関や窓口の周知方法について検討する。」との記載があるが、具体的な周知方法について踏み込んで記載すべき。

### ◇④シート記載内容について

→問題なし。

### ◆その他

施策の目指す姿の「地域の住民がともに助け合って生活しています」という部分が、あまりにも大きなイメージ過ぎて想像がつかない。上記の書き方だと地域づくりのようにもとらえることができ、どのように地域福祉の推進を行っていけば施策の目指す姿に近づけるのかがわかりにくい。施策の目指す姿について、地域福祉の推進の観点を踏まえて、もう少し具体的に記載したほうが良いと思われる。